

建築教育ニュース

1983, 11

東日本建築教育研究会

## 目 次

1. あいさつにかえて .....	会 長 .....	1
2. 昭和57年度事業報告および会計（決算） .....	事 務 局 .....	2
3. 昭和58年度事業計画・会計（予算）および役員名簿 .....	事 務 局 .....	4
4. 昭和58年度総会・研究協議会報告 .....	高岡工芸高校 … 宮 浦 弘 義 .....	7
5. 岐阜県工業高等学校における建築教育の現況 ..... 関 商 工 高 … 大 野 充 弘 .....		8
6. 主査会報告 .....	山 室 滋 .....	10
7. 構造分科会報告 .....	主 査 古 谷 勉 .....	12
8. 計画分科会報告 .....	主 査 佐 藤 賢 吉 .....	14
9. 施工分科会報告 .....	主 査 山 室 滋 .....	16
10. 製図分科会報告 .....	主 査 赤 地 龍 馬 .....	18
11. ニュース .....		25

あとがき

## 1. あいさつにかえて

会長 東京都立蔵前工業高等学校長 國 兼 光 由

私は、兼六園には一、二度行ったことがあるが、その敷地内にある成巽閣まで足をのぼしたことがない。それで、ついぞそれがどんなものか知らなかった。ところが、先日所用があって、金沢を訪れたおり、帰りの列車の発車時刻までの時間をもてあましたこともあって、成巽閣でも入ってみようかという軽い気持で入館したのだが、そこで私は思わぬ収穫をした。

はじめ、二階に上がり数々の遺品展示品を見て、それから一階に降り一巡して広縁に出た。その時のことである。私は、「オヤ」と何か違った感じがするものを目の前に広がる美しい庭園から受けた。勿論、庭はご承知の通り、飛鶴庭といい名勝といわれるだけあって立派なものであるが、それからではない。よく見ると、庭は、その全面の景色が、何のさえぎるものがなく、視野一杯に見渡せるではない。実は、私はその事に驚かされていたのであった。広縁は、巾2m、長さ18m位あろうか、その間に柱は一本もない。僅かに広縁の両端軒先近くに一本ずつのふつうの柱が立っていて、その上に直径20cm位の細い丸太の梁が一本通っているだけである。この梁一本で広い屋根を支えている。金沢といえば雪国、雪の重さを考えれば、到底たえられないと思われるのに、建っているのだ。

これは一体どうなっているのだろう、不思議でならなかった。後ほどの説明では、屋根の重みは座敷内の梁で支える構造となっているとのこと。この話を聞いて、はじめて梁の基本原理を応用した簡単な仕組みからできていることが分かった。が、どうしてこんな力学的発想が昔の人にできたのだろうか。これは、どんな修業から生まれてきたのであろうか。……。私には、極めて創造的なものと思われるのに、全く昔の棟梁達の英知には驚きいってしまった。

中国に、「無用の用」という言葉がある。いままで、ささいなことと見逃がしてきたものの中にも大切なものがあるという戒めの言葉であるが、基本を改めて見直して考える大切さを、私は、この時ほど強く感じたことはなかった。

科学、技術の進歩した今日、新しいものを作りだすのは容易なことではないといわれている。しかし、こんな風に基本の新たな活用の努力をすれば、まだまだ発展の余地はたくさんあるのではなからうか。 無用の用 基本を見直し、柔軟な頭づくりをとしきりに思う今日此頃の私である。

東日本建築教育研究会の会員の皆様、一層のご活躍を期待しています。

## 2. 昭和 57 年度 事業 報告

### 1 総会・研究協議会

日 時：昭和 57 年 6 月 11 日（金）・12 日（土）

会 場：群馬県吾妻郡草津町苧合谷 696 - 13

「全建プラザ」 TEL（草津）0279-88-5811（代）

#### 1) 総会議事

ア 昭和 56 年度 事業報告並びに会計報告

イ 昭和 56 年度 会計監査報告

ウ 昭和 57 年度 役員改選

エ 昭和 57 年度 事業計画並びに予算案審議

オ そ の 他

#### 2) 研究協議会（全体会）

議 題：「新教育課程について」

研究発表 1 山形県立山形工高 教諭 渡 辺 幸 一 先生

「工業基礎と自主研究・グループ活動を通じての学習意欲の喚起」

研究発表 2 群馬県立前橋工高 教諭 小 林 一 男 先生

「県内各校における工業数理年間指導計画と実施後の感想」

※ 指導助言者

#### 3) 研究協議会（分科会）

ア 製図分科会：建築製図の学習指導について

イ 計画分科会：建築計画の学習指導について

ウ 構造分科会：建築構造・建築設計の学習指導について

エ 施工分科会：建築施工の学習指導について

### 2 講習会

日 時：昭和 57 年 8 月 6 日（金）・7 日（土） 日本光学 横浜工場

内 容：「建築測量に関する実技演習並びに工場見学」

### 3 第 1 回製図コンクールの実施 11 月 17 日締切（報告済）

### 4 常任理事会・委員会等

1) 常任理事会：年 6 回開催

2) 主 査 会：年 4 回開催

3) 委 員 会：各分科会とも年 6～8 回開催

### 5 工業標準テスト：会長，埼玉県 1，神奈川県 1，千葉県 1，国立 1

### 6 刊 行 物：建築教育ニュース 1982 年号 11 月発行

教科に関するアンケートのまとめ



### 3. 昭和 58 年度 事業計画

#### 1 総会・研究協議会

日時：昭和 58 年 5 月 20 日（金）・21 日（土）

会場：富山県東砺波郡庄川町「越中庄川荘」TEL 07638-2-5111

- 1) 講演会 佐藤工業株式会社 常務取締役 佐藤 嘉剛  
「建設業の今後の展望と建築教育」

#### 2) 研究協議会

- (1) 全体会：研究発表 富山工業高校 寺井 清 先生  
「工業基礎・工業数理の実践報告」

#### (2) 分科会

- ア 製図分科会：「建築製図の学習指導について」
- イ 計画分科会：「建築計画の学習指導について」
- ウ 構造分科会：「建築構造・建築設計の学習指導について」
- エ 施工分科会：「建築施工の学習指導について」

#### 2 講習会（定員 80 名）

日時：昭和 58 年 8 月上旬東京で 1 泊 2 日の予定

内容：建築科目指導に関連するパソコンの実技演習

#### 3 常任理事会・各委員会等

- 1) 常任理事会：年 7 回程度開催予定  
※ 会長，副会長，事務局長，各分科会主査，代表理事
- 2) 主査会：年 5 回程度開催予定  
※ 会長，副会長，各分科会主査
- 3) 分科会：各分科会とも必要に応じて開催予定  
※ 分科会主査，各学校代表委員
- 4) 教材委員会：必要に応じて開催予定  
※ 委員長，副会長，各分科会主査，委員
- 5) 編集委員会：必要に応じて開催予定  
※ 委員長，副会長，委員
- 6) 製図コンクール運営委員会：必要に応じて開催予定  
※ 委員長，副会長，委員
- 7) 工業標準テスト問題作成委員  
※ 会長（副会長），委員 4

#### 4 刊行物

- 1) 建築教育ニュース：1983 年号 発行予定
- 2) 建築構造演習ノート・同図集 実教出版 KK より発行予定
- 3) 会員名簿 3 号：9 月ごろ発行予定（今後は毎年発行する予定）

## 昭和58年度 予 算

### 1 収入の部

項 目	予 算 額	摘 要
会 費	700,000	140校分
雑 収 入	11,364	助成金, 銀行利子等
印 税	80,000	ワークブック等
賛 助 会 補 助	180,000	
繰 越 金	118,636	昭和57年度繰越金
合 計	1,090,000	

### 2 支出の部

項 目	予 算 額	摘 要
1) 事 業 費	820,000	
総 会 費	320,000	会場校補助 12万, 本部経費
資 料 費	200,000	総会資料, ニュース等印刷費
講 習 会 補 助	40,000	夏季講習会補助
出 張 補 助 費	100,000	西日本総会, 北海道等出張補助
分 科 会 経 費	160,000	4分科会 各4万
2) 運 営 費	253,000	
役 員 会 合 費	18,000	理事会, 主査会等年20回
交 通 通 信 費	150,000	総会通知, ニュース等発送費
雑 費	20,000	事務用品, 用紙代等
事 務 費	15,000	事務局事務手当
準 備 費	50,000	名簿積立金(累計24万)等
3) 予 備 費	17,000	
合 計	1,090,000	

※ 事 務 局 : 東京都立 蔵前工業高等学校 建築科

111 東京都蔵前1-3-57 TEL 03-862-4488

※ 銀 行 口 座 : 第一勧業銀行 芝支店 普通口座 054-1224173

「東日本建築教育研究会 代表 國 兼 光 由」

## 昭和58年度 役員名簿

- |    |                |   |  |
|----|----------------|---|--|
| 1  | 会 長            | 東京都立 蔵前工業高等学校   | 校長 國 兼 光 由   |
| 2  | 副 会 長          | 東京都立 墨田工業高等学校<br>東京工業大学工学部 附属工業高等学校   | 教諭 井 上 満<br>教諭 五十嵐 永 吉   |
| 3  | 事務局長           | 東京都立 蔵前工業高等学校   | 教諭 高 山 英 一   |
| 4  | 会計監査           | 東京都立 小石川工業高等学校<br>川崎市立 工業高等学校   | 教諭 堀 越 喜与志<br>教諭 加 藤 尚   |
| 5  | 常任理事 :         | 国 兼 光 由 (会 長)<br>井 上 満 (副 会 長)<br>赤 地 竜 馬 (製図主査)<br>古 谷 勉 (構造主査)<br>古賀 昌 之 (東工大附属工)<br>松本 延 夫 (都立 葛西工)<br>小野 幹 郎 (東京工業高校)<br>白石 石 四 郎 (千葉 市川工)<br>飯 田 三 郎 (神奈川向の岡工) | 高 山 英 一 (事務局長)<br>五十嵐 永 吉 (副 会 長)<br>佐 藤 賢 吉 (計画主査)<br>山 室 滋 (施工主査)<br>森 安 四 郎 (都立 田無工)<br>安 藤 允 浩 (安田学園高校)<br>関 田 毎 吉 (埼玉 熊谷工)<br>菅 野 昭 雄 (千葉 市川工)<br>佐 藤 克 己 (神奈川横須賀工) |
| 6  | 分科会委員          |   |  |
| 1) | 製図分科会 :        | 主査 赤 地 竜 馬 (都立 墨田工)<br>古賀 昌 之 (東工大附属工)<br>土 田 裕 康 (都立 田無工)<br>大 仁 田 拓 三 (千葉 市川工)<br>加 藤 尚 (川崎 市立工)<br>落 合 弘 (神奈川藤沢工)  | 高 山 英 一 (都立 蔵前工)<br>遠 藤 勇 (東京工業高校)<br>土 信 田 達 雄 (埼玉 大宮工)<br>角 田 勝 男 (神奈川向の岡工)  |
| 2) | 計画分科会 :        | 主査 佐 藤 賢 吉 (都立 小石川工)<br>藤 岡 洋 保 (東工大附属工)<br>大 橋 正 俊 (都立 葛西工)<br>山 本 友 一 (埼玉 川越工)<br>山 泉 慶 三 (神奈川 神奈川工)  | 安 藤 允 浩 (安田学園高校)<br>大 間 俊 彦 (関東第一高校)<br>田 中 良 司 (埼玉 春日部工)<br>大 庭 孝 雄 (小田原城北工)  |
| 3) | 構造分科会 :        | 主査 古 谷 勉 (都立 田無工)<br>栗 原 博 (東工大附属工)<br>井 上 満 (都立 墨田工)<br>佐久間 一 (千葉 市川工)<br>池 田 幸 正 (川崎 市立工)   | 堀 越 喜与志 (都立 小石川工)<br>遠 山 時 幸 (安田学園高校)<br>佐 藤 功 (埼玉 川越工)<br>仲 田 治 喜 (横浜 鶴見工定)   |
| 4) | 施工分科会 :        | 主査 山 室 滋 (神奈川 神奈川工定)<br>奥 田 幸 司 (都立 田無工)<br>小 野 幹 郎 (東京工業高校)<br>大 沢 二 郎 (埼玉 熊谷工)<br>村 上 竹 久 (神奈川 藤沢工)<br>原 田 源 (山梨 峡南工)   | 高 橋 一 (都立 葛西工)<br>田 島 昇 (埼玉 大宮工)<br>山 崎 敏 弘 (神奈川向の岡工)<br>佐 藤 克 己 (神奈川横須賀工)<br>土 健 (山梨 甲府工定)  |
| 7  | 教材委員会 :        | 委員長 五十嵐 永 吉 (東工大附属工)<br>井 上 満 (副 会 長)<br>赤 地 竜 馬 (製図主査)<br>古 谷 勉 (構造主査)<br>高 山 英 一 (都立 蔵前工)<br>堀 越 喜与志 (都立 小石川工)<br>宮 島 正 栄 (安田学園高校)<br>白 石 四 郎 (千葉 市川工)            | 佐 藤 賢 吉 (計画主査)<br>山 室 滋 (施工主査)<br>松 本 延 夫 (都立 葛西工)<br>森 安 四 郎 (都立 田無工)<br>岡 隆 男 (埼玉 川越工)<br>加 藤 尚 (川崎 市立工)   |
| 8  | 編集委員会 :        | 委員長 堀 越 喜与志 (都立 小石川工)<br>古賀 昌 之 (東工大附属工)<br>池 田 幸 正 (川崎 市立工)  | 松 本 延 夫 (都立 葛西工)   |
| 9  | 製図コンクール運営委員会 : | 委員長 赤 地 竜 馬 (都立 墨田工)<br>副委員長 白 石 四 郎 (千葉 市川工)   |  |

委員は製図分科会委員の兼任



## 4. 昭和 58 年度 総会・研究協議会報告

富山県立高岡工芸高等学校 宮 浦 弘 義

日 時：昭和 58 年 5 月 20 日（金）～ 21 日（土） 参加者：148 名

会 場：

庄川勤労者体育センター	（富山県庄川町庄）	（	”	）	
					越中庄川荘
					庄川峡働く婦人の家

### (1) 総会議事

- ア) 昭和 57 年度事業報告及び決算報告
- イ) 監査報告
- ウ) 役員改選
- エ) 昭和 58 年度事業計画および予算審議
- オ) その他

### (2) 研究協議会（全体会）

講 演：演題 「建設業の今後の展望と建築教育」

佐藤工業株式会社 常務取締役 佐 藤 嘉 剛

研究発表：「本校における工業数理」

富山県立富山工業高等学校教諭 寺 井 清

「本県における建築技術検定」

栃木県立真岡工業高等学校教諭 岡 田 義 治

### (3) 研究協議会（分科会）

議 題：

製図分科会 「建築設計製図の学習指導について」

計画分科会 「建築計画の学習指導について」

構造分科会 「建築構造・建築設計の学習指導について」

施工分科会 「建築施工の学習指導について」

### (4) 研究協議会（全体会）

- ア) 各分科会の報告・質疑応答
- イ) 指導助言

以 上

## 5. 岐阜県工業高等学校における建築教育の現況

県立関商工高 大野 充弘

<はじめに>

県下の建築科では、この3年間にわたって、工業数理の研究を続けてきました。2年間は教材の研究並びにその指導案づくりに取り組み、今年度は教具の開発に取り組んでいますが、なかなか名案は浮びません。各校とも四苦八苦しているのが現状です。

毎年事業所の見学会（現場見学）を計画しています。今年は夏休みを利用して、岐阜市内で市民センター建設現場の見学をしました。地下水位の高い岐阜市内での工事における苦労話や現場打ちタイルの取り付けなど、たいへんためになりました。

また、地元の企業の協力を得て、現場体験実習を行ないました。県内外4ヶ所の建設現場に分かれて、3日間の体験でした。各現場とも3～6名の参加者でしたが、現場経験の少ない教師にとってたいへん有意義な取り組みだったと好評を得ました。毎年という訳にはいなくても、1年おきとか2年おきとかにこのような経験ができる機会を設定できればよい勉強になると思います。

昭和57年5月「岐阜県建設技術教育センター」設立について、建設技術教育特別委員会はその研究をまとめました。そのほんの一部を掲載することで報告にかえさせていただきます。なお建設技術センターは建築科では学校内での実習が施設・設備等の面から実施が不可能で、現場見学による教育にとどめている現状を打破し、建設機械の運転・作業のほか、大規模な施工実習と管工事実習ができるよう1ヶ所に充実した施設・設備を備え、高度な専門的技術をもった職員で、集中的かつ能率的に教育する施設をめざすセンターです。

<岐阜県建設技術教育センター設立について>

### 設立の趣旨

近年建設業の技術革新は著しい発展を続けている。高等学校における工業（建設）教育もこれに適應するため、施設・設備の充実を図り、建設技術教育の推進を進めているが、学校での指導は種々の制約を伴い極めて困難である。

このため高等学校における建設技術教育を推進するため、県下建設関係学科（土木科・建築科・設備工業科など）の生徒を対象に、おもに施工実習に関する指導を集中かつ能率的に行ない、その技術を習得させるとともに、宿泊実習を通して人間教育を行ない、次代の建設業を担う人材の養成をはかる。

また、工業技術の進展に応じ、建設関係教職員を対象として建設技術教育に関する研修ならびに調査研究も行なう。

### 指導方法

- 1) 関連学科名 土木科、建築科、設備工業科
- 2) 対象学年 2・3年 4泊5日

3) 1クラス40人を単位としてパート学習

**実習課題** — 建設機械の運転と施工

1) ブルドーザーの基本運転法	2時間	} 建築科3年
2) ホイールローダーの基本運転法	2時間	
3) ドラグショベルの基本運転法	2時間	
4) 建設機械の日常整備法	1時間	

**実習課題** — つくる実習・たてる実習

1) 主として縄張り・水もり・やり方・地業・基礎工事	11時間	建築科2年
2) 主として木造住宅組立てセットによる建方実習	7時間	建築科2年
3) 主として鉄骨組立てセットによる建方実習	7時間	建築科3年
4) 主として鉄筋組立てセットによる配筋・型わく建て入り実習	7時間	建築科3年
5) 主として配筋セットによる現寸図・ブロック積実習	7時間	建築科2年

**実習課題** — 測 量

路線測量

1) 中心ぐい設置	4時間	} 建築科2年	総路線長300～400mとし(測量15～20点)曲線部を2～3ヶ所程度設ける。外業は内容によって全路線について行わず、部分的に行なうこともある。
2) 縦横断測量	7時間		
3) 幅ぐい設置	2時間		
4) やり方設置	5時間		

**施 設**

土 地		建 物	
総面積	66250m <sup>2</sup>	総面積	4450m <sup>2</sup>
建物敷地	16250m <sup>2</sup>	管理棟 RC3階建	研修室、製図室、宿泊室 1800m <sup>2</sup>
基本運転実習場	5000m <sup>2</sup>	付 属 棟 S 平家建	食堂、浴室 300m <sup>2</sup>
作業運転実習場	4000m <sup>2</sup>	実習棟Ⅰ S 平家建	軒高の高い施工実習室用 1600m <sup>2</sup>
整備用敷地	2000m <sup>2</sup>	実習棟Ⅱ S 2階建	管工事实習用 350m <sup>2</sup>
その他実習地	50000m <sup>2</sup>	車 庫 S 平家建	建設機械用 300m <sup>2</sup>
		整備工場 S 平家建	建設機械・施工用機器 80m <sup>2</sup>
		燃料庫 S 平家建	実習用 20m <sup>2</sup>

**設 備**

ブルドーザー、ホイールローダー、ドラグショベル、整備用機器、洗車用設備、トランシット、レーザートランシット、レベル、レーザーレベル、電磁波測距儀、基線尺、電算システム、座標読取儀、座標展開機、木工機械、鉄骨鉄筋加工用機械工具、型枠・仮設用具、コンクリート調合運搬機械、施工機械、資材運搬機械、構造組立セット、管工事設備、加工取付工具、建設機械

以上の概略をもって県に陳情しました。

## 6. 主査会報告

県立神奈川工業高校 山室 滋

今回から主査会の報告をこのニュースで行うことになりました。

主査会はご存知の通り、本研究会の会長・事務局・4分科会（製図・計画・構造・施工）の主査による協議会で、建築教育の研究、研究事業等の企画の一端を担っております。

主査会はこのように、分科会の今後の方策を検討しその動向を会員の皆様にお知らせしながら、併せてご意向を伺い、身近かな存在となって活動して参ります。

会員の皆様のご要望を主査会までお寄せ下さい。

### 1. 主査会の日程（予定）

主査会の年間開催日程は概ね次のように行います。

1回目：3月中旬 — 次年度の分科会委員の構成確認（入試時期をさける）。

総会・分科会の研究テーマの検討。

2回目：5月下旬 — 総会・分科会の準備と確認、夏期講習会の検討・準備。

3回目：7月初旬 — 夏期講習会の準備と確認（テスト中に行う）。

次年度の夏期講習会の検討、製図コンクールの準備。

4回目：10月末～11月初旬 — 製図コンクールの準備と確認、次年度の夏期講習の準備。

5回目：1月中旬 — 年間行事のまとめと次年度の行事計画。

次年度の分科会委員の構成検討。

世話役：主査の輪番制とし、事務局との連絡、主査会の記録、建築ニュースへの報告などの仕事をする。本年度は、施工分科会主査の山室が担当する。

### 2. 分科会委員の構成

各分科会の委員会は、東京・神奈川で開催（年5回～7回）している都合上、各々の委員は委員会に出席できる地域の近県にしばられております。

そして、これらの地域の各学校からは、いずれかの分科会の委員を担当するように調整して、会長から委員をお願いしております。

したがって、委員の改選には委員が都、県の地域、学校に片寄らず、各分科会の意向を反映させるような委員構成にしております。

近県には、群馬、茨城、静岡なども含まれると考えられますが、委員会への出席が確実であれば各県単位でご相談の上、各分科会宛1名の委員をご出席願いたいと存じます。

### 3. 夏期講習について

昭和59年度の夏期講習会は、施工分科会が主体となって「施工実習研究協議会」とし

て、次の要領で実施します。現在までの準備状況は、施工分科会報告を併読下さい。

- ① 日 時 — 昭和59年8月初旬、2泊3日 9時～16時
- ② 会 場 — 神奈川県立向の岡工業高校
- ③ 宿泊地 — 川崎市中原区小杉町3-264-3 FACOM富士通、ユニオンビル  
武蔵小杉駅（東急線、南武線の交差駅）下車3分
- ④ 費用、その他 — 宿泊費が来年4月に改定になりますので、詳細は後日通知します。
- ⑤ 内 容 — 実施項目（案）については、施工分科会報告を基本にして、これからの実施現場での準備、委員会の検討を加えて、当日用の資料をつくり実施する。

#### 4. 建築実験・実習の履習

建築実験・実習の履習状況は、以前から各学校でいろいろな項目を組み合わせ実施しておりましたが、工業基礎の出現によってこれらの履習時間は不足し、実施項目にもバラツキが生じているようです。

そこで現状の実験・実習の配当時間内で最小限の履習項目を見出し、どの項目をどのように履習すべきかと各分科会で検討しては如何なものでしょうか。

分科会の委員会は共通のテーマで、各々の専門の立場で直接関連する履習項目をまとめ検討するのも有意義ではないでしょうか。

全科目に亘る内容であるので一朝一夕には答えの出るものでなく、長い年月が必要ですが全体を見通して生産技術とを結びつけて考えるのも一つの方法と思います。

主査会では、このような共通のテーマの検討について考察中です。

会員の皆様のご検討とご意見をお寄せ下さることをお待ちしております。

#### 主査会の連絡先

横浜市神奈川区平川町19

県立神奈川工業高校 建築科（定） 山 室 滋

## 7. 構造分科会報告

都立田無工業高校 古谷 勉

昭和57年9月～58年8月までの1年間の構造分科会の活動状況の概略を報告します。

昭和57年

9月	9. 7 57年度第3回構造分科会委員会（小石川工高で）。「新耐震設計の研修会」についての具体案の検討を行う。開催日時：12月13日（1：30～4：30），場所：小石川工高，対象：関東，甲信，東海の各校とし，その他は各ブロックの幹事校に連絡する。
10月	10. 30 「新耐震設計の研修会」についての案内状を発送する。
12月	12. 13 「新耐震設計の研修会」を予定通り実施する。参加者は愛知県からの会員を含め60名近い人数でした。研修内容の主な項目は，次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新耐震設計法について（堀越喜与志：小石川工高） <ul style="list-style-type: none"> <li>①新耐震設計法が生まれた背景，②近年の震害について，③新耐震設計法の目標，④構造計算のフロー，⑤地震力，⑥保有水平耐力，⑦必要保有水平耐力など，新耐震設計法の全般を通した内容であった。</li> </ul> </li> <li>○ 鉄骨構造の保有水平耐力の算定について（古谷 勉：田無工高） <ul style="list-style-type: none"> <li>①耐震設計（ラーメンの保有水平耐力の算定）の手順 ②鉄骨構造「3階建店舗併用住宅」を具体例として，ラーメンの保有水平耐力を節点分割法などにより求めた。</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;">多数の参加は，新耐震設計法に対する会員の関心の高さを表している。</p>

昭和58年

3月	3. 16 57年度第4回構造分科会委員会（小石川工高で）。「新耐震設計の研修会」についての決算報告と反省を行う。58年度総会における構造分科会の議題は「建築設計の学習指導について」とする。これに関連した建築設計の内容に関するアンケートを実施することも決定する。理事会から，58年度夏季講習会の開催を構造分科会に依頼あり，協議の結果，「パソコンに関するもの」を扱うことで了承する。
4月	4. 15 58年度第1回構造分科会委員会（東工大附工高で）。夏季講習会におけるパソコンの機種選定に必要な資料を得るため，メーカー5社による説明を受ける。 4. 18 建築設計に関するアンケート用紙配付する（全会員校152校）。
5月	5. 20～21 昭和58年度総会・研究協議会（富山県：越中庄川で）。出

- 席者29名。)「建築設計の内容に関するアンケート」の集計についての報告を行い、このアンケート調査の結果やその他建築設計などについての質疑を実施した。
- アンケート調査のむずかしい反面がでてきた。いわゆる解釈の違いによるものである。特に、工業数理と建築設計の関連ですっきりしない面があった。
  - 生徒の質と指導内容をどう考えたらよいか、悩んでいる学校が多い。
  - このアンケートの回収率は全日制73.7%、定時制50.0%、全体で68.4%であった。むずかしいアンケートであったが、大変回収率が高い。
  - 建築設計の「標準テストの出題範囲」が問題となり、座屈に関する部分を除いてほしいという意見が出た。後日、標準テスト作成委員に連絡した。
- 6月 6. 20 58年度第2回構造分科会委員会(東工大附工高、富士通で)、夏季講習会を2つのコースに分け、中級程度をNEC、初級程度を富士通に依頼することを決定。講習内容の細部を検討するため、富士通で各委員による研修を実施した。
- 7月 7. 8 58年度第3回構造分科会委員会(NECで)、夏季講習会に必要な資料作成のため、NECで研修を実施し、講習会の内容の最終確認を行う。
- 8月 8. 9～10 「58年度夏季講習会：Aコース」を予定通り、NECのパソコンにより実施する(東京：明治生命三田ビルで)。参加者32名。Aコースは中級程度とし、プログラムの作成と実技演習を実施した。課題用プログラムは池田幸正(川崎工)・遠山時幸(安田学園)・仲田治喜(鶴見工)の各委員によって作成したものを使用した。課題用プログラムの一部に未完成のものがあり、それを参加者に完成してもらうような実習も行うことができた。
8. 11～12 「58年度夏季講習会：Bコース」を予定通り、富士通のパソコンにより実施する(東工大附工高で)。参加者48名。Bコースは初級程度とし、既製プログラムの活用方法と機械操作演習を実施した。既製プログラムは、パソコンによる透視図の作成に必要なものを活用した。データ入力練習を兼ねた、住宅バースの作成演習を行い、図形処理について研修した。また、パソコンによる自動製図(平面図)についての講義があり終了した。

## 8. 計画分科会報告

都立小石川工業高等学校 佐藤賢吉

### ◎はじめに

本年度、計画分科会では研究活動の一環として、建築法規の分野を今後どのように指導したらよいかをとりあげることにした。今回は、昭和58年度総会（富山大会）・研究協議会の内容を中心に報告することにする。

#### ① 基礎資料について（昭和58年4月実施のアンケート集計によるもの）

##### 1) 教育課程に関して

- 普通教科単位数……………50単位 ～ 57単位 —— 約80%の学校が実施
- 工業教科単位数……………40単位 ～ 46単位 —— 80 “ ”
- 選択（普・工とも）単位数……2単位 ～ 4単位 —— 最も多い
- H・R、クラブ……………標準6単位
- 総単位数……………96単位 ～ 102単位 —— 約90%の学校が実施

##### 2) 建築計画の単位数

- 4単位 ～ 6単位……………95% “ ”

##### 3) 建築計画の学年配当

- 4単位実施校では、第2学年で2単位、第3学年で2単位が最も多い。
- 5単位実施校では、第2学年で2単位、第3学年で3単位が最も多い。
- 6単位実施校では、第2学年で2単位、第3学年で4単位が最も多い。

#### ② 建築法規の指導に関して

建築法規の指導計画でもっとも多いものは、教科書とは関係なく、従来の科目「建築法規」に準じた学習指導法である。

次は、建築計画の中では、建築法規の概要程度とし、他の専門科目で関連法規をそれぞれ分担して指導する。以下、新教科書に準じた学習指導、および、建築計画の中で法規全分野を指導するといった……実状である。

その他として、製図において指導する。実習内で演習による指導する。また教材としては、建築基準法令集・建築法規用教材（日本建築学会編）を採用しているなどがあげられている。

以上がアンケート分析の概要である。

#### ③ 研究協議会（計画分科会）

日時・昭和58年5月20日（金）

会場・越中庄川荘 参加者数・35名

司会・大庭委員（小田原城北工高） 座長・佐藤（主査・都立小石川工高）

##### 1) 計画分科会活動の経過報告および出席委員の紹介。



## 2) 研究協議

### 「議題」 建築計画の学習指導について

#### — 新教育課程における建築法規の指導 —

研究協議の中心課題は、新教育課程における建築法規の指導に関してすすめられ最初に、アンケートによる基礎資料の補足説明を行い、次に各学校の状況報告がなされ、これらをもとに活発な協議が展開された。以下、各学校における建築法規の学習指導についての取りくみ状況の概要は次のようである。

#### <指導形態>

- ・第3学年で施工の中で1単位を法規にあてる。
- ・第2学年で実習の中で1単位程度法規にあてる。
- ・第3学年で計画の中で1単位を法規にあてる。
- ・第3学年でゆとりの時間で20時間程度法規の指導をする。
- ・選択科目の中で1単位～2単位を設ける。

#### <指導内容>

- ・住宅建築を主とした建築確認申請に必要な程度の内容とする。
- ・建築技術者（建築教育）として必要な法の基礎知識
- ・二級建築士受験との関連をベースとした程度の内容とする。
- ・その他要望として、建築計画との関係を取扱った法規の副読本的なものは考えられないか。などであった。なお、参考までにアンケートに記載されていた教材の1つ、建築法規用教材1（日本建築学会編B5、102頁）の内容を簡単にお知らせしておきます。

第1章・建築法規の歴史……建築関係法制、行政、都市人口、基準法改正略史など。

第2章・建築法規の展望……建築関係法規の種類、法・施行令の構成など。

第3章・建築法規の用語……法令用語、用語の定義、算定方法など。

第4章・建築基準法

(1)集団規定……用途地域、形態規制、斜線制限など。

(2)単体規定……一般構造、構造強度、建築設備など。

(3)制度規定……申請の手続き、建築協定、審査会、定期報告など。

付録・条文早見表

以上のような目次構成で本書の特徴は、図解や表示を多くした内容表現となっている。◎おわりに、会員校諸先生方の実践記録や、分科会に対するご意見・要望などございましたら是非ご連絡下さいませようお願い申し上げます。

（計画分科会連絡先・〒162 東京都新宿区富久町22番1号  
都立小石川工業高等学校 建築科 佐藤賢吉）

## 9. 施工分科会報告

県立神奈川工業高校 山 室 滋

分科会報告は、富山会場での総会・分科会と委員会活動の二つを内容とします。

### 1. 総会・分科会の報告

分科会は、施工分科会資料No19に従い、来年度実施する夏期施工実習研究協議会の実習項目（案）を説明、協議を行ったのち、各学校で実施している施工実習の履習内容を提示して戴いた。

#### ① 分科会の研究・協議

本年度の夏に予定していた夏期施工実習研究協議会は、会場校の校舎の改築の時期と重なったため、他の会場を選定して59年度夏の実施に向けて目下準備中である旨を伝え、実施項目の検討、協議に入る。

当日実施する実習項目選定の基本方針は、生徒が将来の建築生産の現場で管理技術者として役立つための実習内容を構造別主要項目に組み立て、分科会資料No19のように実施することを確認し、各々の構造別実習項目の検討に入った。

構造別の実習項目は、担当の分科会委員から資料説明を行い、協議を進めた。

資料の配布・カタログ回覧

鉄骨造実習のガゼットプレートの型板とりに用いるフィルムシートの現品片を見本品として参加者に配布し、フィルムシートと定規とり用の帯板の見本を綴ったカタログを回覧する。

各校の履習状況

各学校で実施している施工実習の内容など参考になる事項を掲げます。

A：夏期施工実習研究協議会が行なわれる以前の施工実習は、木造だけに近い内容でしたが47・49年の研究協議会に参加してからは鉄筋コンクリート造、鉄骨造などの内容を教科書から選択して組み入れるようになった。

やはり教科書だけで実施するよりも会場で見、体で習得したものは実習に入り易く幅のある実習が行える。

B：鉄骨造実習は年12時間あり、更衣室を構造設計の本にあるラチスばりの図ではりをつくりつつある。

C：スラブ筋の組立実習を行っている。自治会館の実物の建物から実物加工の鉄筋を準備してあるので、はりせいだけスラブ型わくを地上より高くつくり、これに配筋している。

生徒に立体感がわかり、はりへの定着、バンド位置、鉄筋の高さ位置とかぶり寸法、はり筋との取合い、スペーサーブロックの高さ寸法と位置など総合的な勉強になる。

D：出張費には限りがあるので夏期講習のある場合は総会の費用をこれに回して準備している。夏期講習会の実施について出来るだけ早く知りたい。

E：施工実習は学校を出たばかりでは不明な点が多いので、初心者のために教科書に表われていないような事項、例へば、必要な工具と入手先、価格、用い方などの資料をP-9のように各実習項目ごとに一覧にして載けると有難いのだが。

— 夏期研究協議会の資料は、各実習項目に亘って詳細な資料をつけると共に、実習項目に沿って詳しい内容の解説を付けたものをつくります。

F：鉄筋コンクリート実習のスラブの墨出しで、図2-196 わく組足場を用いた墨出しは2m未満の高さで行っているが……。

— 土間コンクリートの基準墨を1階のスラブ上に立ち上げて印す作業をわく組足場をスラブの高さに見立てて実施している。墨出し作業要領の習得と安全を第一にしているのでこの高さの足場にした。夏期研究会の現地には多人数の安全と現場の実状に合わせてこのスラブの傍に2段組みの足場をL字状に配置する予定です。

## 2. 委員会報告

総会後の施工委員会は次の日程で、59年度夏期施工実習研究協議会の準備を行いました。

委員会：昭和58年9月30日（金）於：県立向の岡工業高校

会場：会場は宿泊先が傍にあることを第1条件で選びました。会場校は国鉄南武線の久地駅で、宿泊先は同じ南武線の都市、小杉駅の傍にあるという立地条件で決定しました。

宿泊先の下調べ、打合は7月末に済ませて予約のお願いをしました。

費用：遠方の人の前泊、宿泊する人、通勤する人などで各々の費用が異なりますので申込み易い書式をつくります。宿泊費は来年度の改正料金が4月にきまり次第案内します。

資料：実施内容は今までに検討し分科会に提案して協議した事項を基本にし、これから実施現場での準備と合せて当日用の資料をつくります。

参加申込：前回実施の参加状況は

昭和47年度 於 横須賀市立工高 参加校 53校 74名

昭和49年度 於 盛岡工業工高 参加校 64校 84名 でありました。

今回もこのような参加者を予想して出来るだけ受け入れるようにしたいと思っておりますが、宿泊者数と班別編成の有効数等の点から、今後充分な計画と検討を委員会でを行い、実施要項を決めて参ります。

夏期施工実習研究協議会については、主査会報告の夏期講習の欄を併読下さるようお願いいたします。

## 10. 製図分科会報告

都立墨田工業高等学校 赤地龍馬

### Ⅰ 分科会の動向について

#### 1. 総会（富山大会）—58年5月20日（金） 15:00～17:00

研究協議会（分科会） 議題：「建築製図の学習指導について」参加者数 43名

##### (1) 製図コンクールについて

① 昭和57年度（第1回）実施結果について —〈下記②参照〉

② 昭和58年度（第2回）実施要項について

##### (2) 建築製図の学習指導について〈実践報告〉

① 神奈川県立藤沢工業高等学校 佐藤勝弘先生

② 神奈川県立向の岡工業高等学校 角田勝男先生

③ 千葉県立市川工業高等学校 大仁田拓三先生

研究協議会の協議事項は上記の二題でした。建築製図の実践報告は、三校とも昭和57年（第1回）製図コンクールにおいて入賞した学校です。そこで、各学校の「建築製図授業計画表」を資料にして、授業の中でどのように製図コンクール対応しているかを発表してもらいました。

結果は各学校とも、授業の中では完全消化は無理で、夏季休業中の宿題など授業時間以外で指導されていることが報告されました。

また、総会当日は、金賞入賞作品を会場に展示しました。

#### 2. 製図コンクールの運営に協力

製図コンクール運営委員会は、会長、副会長、事務局長、白石四郎先生（市川工高）および製図分科会委員（10名）の計15名によって運営しており、分科会としては、全面的に協力しております。

### Ⅱ 製図コンクールの実施結果について（57年〈第1回〉）

57年〈第1回〉実施結果につきましては、昨年の12月（郵送）、および58年総会（富山大会）において報告しましたが、次の通りです。諸先生方の絶大なるご協力を頂きました、厚くお礼申し上げます。今後ともよろしくご協力申し上げます。

#### 1. 応募校数

72校

全日制59校、定時制6校、全・定の別不明7校

## 2. 応募作品数

課題	作品数・学校数	全日制，定時制の別	
課題 1	107枚 (113枚) 56校	全日制 102枚 (52校) 定時制 7枚 (2校) 不明 4枚 (2校)	
課題 2	75枚 41校	全日制 62枚 (33校) 定時制 5枚 (4校) 不明 8枚 (4校)	
課題 3	62枚 (65枚) 34校	全日制 55枚 (30校) 定時制 6枚 (2校) 不明 4枚 (2校)	
合計	244枚 (253枚)		

## 3. 提出作品枚数別，学校数

提出枚数 課題	1枚	2枚	3枚	4枚	5枚
課題 1	5校	49校	—	—	2校
課題 2	7校	34校	—	—	—
課題 3	6校	25校	1校	1校	—

注1 不明は 送り状なし，又は送り状に全定の区別がないもの

注2 ( )内の枚数は 制限枚数超過分を含んだ枚数(受領枚数)

4. 都道府県別応募数・学校数

都道府県	会員 校数	課 題 1		課 題 2		課 題 3	
		学校数	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数
1 北海道	17	5	10(3)	2	3	1	2(2)
2 青 森	5	1	2	1	2	2	4
3 岩 手	4	2	4	1	2	1	1
4 宮 城	4	1	2	1	1	1	1
5 秋 田	6	1	2	—	—	—	—
6 山 形	7	—	—	1	2	—	—
7 福 島	8	—	—	—	—	—	—
8 茨 城	3	1	2	—	—	1	2
9 栃 木	5	2	3	2	3	2	3
10 群 馬	7	4	8	4	8	4	8
11 埼 玉	6	2	4(3)	2	2	1	3
12 千 葉	4	1	2	1	1	2	4
13 東 京	15	8	15	6	12	3	6
14 神奈川	11	4	7	4	8	2	4
15 山 梨	4	3	6	3	6	1	2(1)
16 新 潟	4	2	4	1	2	—	—
17 長 野	5	1	2	—	—	—	—
18 富 山	2	1	2	—	—	—	—
19 石 川	5	2	3	2	4	2	3
20 福 井	2	1	2	1	1	1	2
21 静 岡	9	3	6	1	2	2	3
22 愛 知	10	6	14	4	8	4	8
23 岐 阜	9	4	7	4	8	3	6
	152	56	107	41	75	34	62
	244 (9)		(6)				(3)

注 ( )内の数字は超過枚数

5. 入賞者一覧表

	課 題 1	課 題 2	課 題 3
金 賞	大船渡工業高校 金 野 仁 高 崎工業高校 小野里 匡 章	岐 南工業高校 上 田 誠 藤 沢工業高校 馬 場 雅 樹	前 橋工業高校 吉 田 稔
銀 賞	豊 橋工業高校 田 嶋 広治郎 大船渡工業高校 高 橋 賢 弥 浜 松工業高校 小 島 敦 子 鶴 見工業高校 小 島 明	宇都宮工業高校 須 藤 隆 司 弘 前工業高校 須々田 充 夫 珠 洲実業高校 寺 上 英 樹 新潟潟工業高校 伊 藤 頼 子	八戸工大第一高 月 館 義 人 前 橋工業高校 船 津 卓 也 定時制
銅 賞	高 崎工業高校 堀 内 昌 好 可 児工業高校 山 田 純 前 橋工業高校 山 本 和 清 墨 田工業高校 小 沼 優 釧 路工業高校 石 沢 伸 一 中津川工業高校 原 克 利	前 橋工業高校 佐々木 高 志 藤 沢工業高校 真 鍋 泰 明 川 越工業高校 安 田 謙 二 鶴 見工業高校 菊 地 文 一 宇都宮工業高校 荒 川 佳 也 川 越工業高校 宮 澤 奈津生 佐 織工業高校 浮 具 昌 伸	市 川工業高校 福 原 義 勝 前 橋工業高校 太 田 明 広 定時制 静 岡工業高校 深 沢 絹 香
奨励賞	長 野工業高校 城之内 一 登	向の岡工業高校 渡 辺 昭 浩	

注 奨励賞：課題1、課題2について、特に定時制の生徒については、その勤労学生としての努力  
をかい優秀作品1点について、賞を与えることにした。

## 6. 課題別講評

### (1) 規定違反

課題 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>用紙を縦に使ったもの（土台マワリのみ）</li> <li>数字にゴム印を使用したもの</li> <li>提出作品が2点を越えたもの</li> </ul>
課題 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>配置図に屋根伏せ図を表示しないもの</li> <li>屋根伏せ図だけを別に表示したもの</li> <li>配置図に造例計画の表示がないもの</li> </ul>
課題 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面図を縮尺1/50の表現内容で表示したもの</li> <li>2階平面図に1階小屋伏せ図を表示したもの（屋根伏せ図でなく）</li> <li>規定面積をオーバーしたもの</li> <li>提出作品が2点を越えたもの</li> </ul>

### (2) 記入もれ

課題 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋根こう配の表示のないもの</li> <li>軒どいの断面表示が太すぎるもの</li> <li>コンクリートや地盤の表示記号の誤記（表示角度）</li> <li>軒げたとたる木の取り合はせが軒げた上端の中心でないもの</li> <li>とい受金物、羽子板ボルト、かすがいなどの大きさ、取付け位置の誤記</li> <li>建具の見込寸法とあき寸法の誤記</li> </ul>
課題 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>配置図に屋根伏せ図の図名の記入</li> <li>物置の屋根伏せ図の表示</li> <li>配置図の敷地寸法、建物から境界線までの寸法、方位の表示</li> <li>平面図で建具、畳の表示、断面図の切断線の表示</li> <li>断面図の屋根こう配、室名、天井高、開口部寸法、最高高さ寸法</li> <li>断面図の縁側と和室の床の段差の表示と寸法</li> <li>各図面の縮尺（1/100, 1/200）</li> </ul>
課題 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>立面図の床下換気口</li> <li>平面図の2m以上の壁部分の柱および通し柱の表示</li> <li>配置図の建物から境界線までの寸法</li> <li>断面図の天井高、開口部の高さ寸法、室名</li> <li>1階屋根伏せ図の1階外壁中心線の表示</li> <li>各図面の図名と縮尺</li> </ul>



(3) 未 熟

課 題 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敷居の水たれこう配と小穴の表示，一筋敷居の溝の表示</li> <li>・ 線の太さの使い分け，文字の大きさ，かき方</li> <li>・ 効果的な配置</li> </ul>
課 題 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平面図に記入する断面図の切断箇所表示線を3ヶ所記入</li> <li>・ 断面図の最高高さ寸法の誤記</li> <li>・ 平面図の柱の表示が大きい</li> <li>・ 車置場が狭く，出入に無理があり，車の大きさ表示が不適當</li> <li>・ 線の太さの使い分け</li> <li>・ 効果的な配図（断面・立面），造園計画</li> </ul>
課 題 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敷地利用を考えた効果的な間取りおよび建物の配置</li> <li>・ 面積比で居室部分1/2以下，夫婦寝室10m未満（特に洋室の場合）</li> <li>・ ちゅう房器具や家具の配置および表示がスケールアウト</li> <li>・ 階段室・洗面所・便所などの採光不足</li> <li>・ 階段の表示方法（特に2階平面図），階段下利用不能（頭がつかえる）</li> <li>・ 車置場の位置と大きさ</li> <li>・ 立面図の床下換気口の位置</li> <li>・ 立面図・屋根伏せ図のふき材料の表示，雨仕舞の配慮</li> <li>・ 造園計画，効果的な配図（立面図と断面図との関連）</li> <li>・ 建築面積，床面積の計算ミス</li> </ul>

(4) 総 評

課 題 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 軒先マワリ詳細図の方が応募も多く，内容も良い作品が多かった</li> <li>・ 材料，寸法などに理解不十分な点が見受けられた</li> <li>・ 微妙なミスで入賞を逸したのももあり，今後一層研究されたい</li> <li>・ 全体的に取組みが真面目で，さらに一層の努力を望みます</li> </ul>
課 題 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体のレベルは接近しているが，傑出した作品が見当たらない</li> <li>・ 平面図・立面図は良いが，配置図・屋根伏せ図・断面図に欠点が多い</li> <li>・ 駐車スペースの計画と造園計画に欠点が多い</li> <li>・ 配置図に屋根伏せ図を図示しなかったり造園計画をしなかったため，良い作品でありながら入賞を逸したものがあつた</li> </ul>
課 題 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 確実な計画，力強い線，丁寧な文字記入など良い作品があり，生徒の熱意と適切な指導がうかがわれた</li> <li>・ 良い作品の中にも各図面の基本的表示方法のミス，わずかな記入もれもあり，一層の精進により完璧に近い表示方法にすることが望ましい</li> <li>・ 造園計画およびその表現力にかなりの差がみられた</li> </ul>

## 7. 審査報告および審査講評

製図コンクールが第1回目ということと、応募要領・課題のお知らせがおそいこともあって、はたしてどのくらいの作品が集まるかという心配がありました。諸先生方の絶大なるご協力を頂き、別表のような多数の作品を提出して頂きました。厚くお礼申し上げます。

審査は課題ごとにチェックポイントを作製し、減点方式で製図分科会の9名が中心になって作業を行ないました。

課題1および2は全体のレベルが接近しており、甲乙つけ難く、理事会の了承をいただき、要項の数よりも入賞作品数を増加しました。

課題3は良い作品もかなりでしたが、自由設計のため、設計・図面表現等でかなりの格差の大きいことが目立ちました。

各課題の細部の講評は、別表の通りですが、記入もれ、誤記、未熟なミスなどが相当数あり、入賞作品のなかにも、減点方式で審査したために、多少のミス・誤記をもつものがあります。きめこまかいご指導の程、お願い申し上げます。

来年のコンクールには、別表の講評を参考にして頂き、ミスの少ない良い作品を応募して下さい。

なお、応募作品に添付する「作品送り状」の不備又はなかったため、事務処理上、苦劳しましたので、必ず送り状を添付し、全定の別をはっきりさせるようお願い申し上げます。

## 11. ニュース

1. 昭和59年度の本会の総会・研究協議会は、来春6月15日（金）・16日（土）の両日盛岡市で開催されます。
2. 昭和59年度の夏期講習会は、施工分科会主催で、8月上旬 2泊3日の予定で進められています。詳細は9を御覧下さい。
3. 昭和59年度の総会后、事務局が交替いたします。すなわち、都立蔵前工高から同墨田工高へ移ります。

## あ と が き

お蔭様にて、「建築教育ニュース」1983年号が出来上りました。

各県の工業高校建築教育の現況報告は、岐阜県にお願いしました。御多忙の所、御協力有難うございました。

昨年度「製図コンクール」が実施され、今年度は第2回目、現在審査が行われている所です。関係の先生方、御苦労様です。

最後になりましたが、総会事務局と各分科会主査の先生方、御協力有難うございました。

1983. 11.

編集委員会